

## 「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化 について」議論内容（要旨）その②

### （3）保線部門の技術支援体制の再整理

#### 〔組合〕

- 企画安全科に技術支援担当を置いてきたが、役割を見直すとは。

#### 〔会社〕

- 専門的な支援や指導はNSG（日本線路技術）に依頼をする。代表技セに「保線技術グループ」を新設して人材育成を担当することとなる。NSGからの指導は支社研修等で行っていく。

### 4. 要員関係

#### 〔組合〕

- これまで教えていただいた施策での要員か。
- 派出が廃止となる関係で技セに担当者は置くのか。
- 代表技セの企画安全科長配置とあるが、これまでは副所長が兼務していたが、どのように変わるのか。

#### 〔会社〕

- 要員説明  
北幹保→助役4（±0）、施設30（▲1）  
一保技→施設22（▲9）  
北保技→施設21（▲8）  
盛保技→助役7（±0）、施設28（▲16）  
青保技→施設22（▲10）
- 一保技は、7月1日で▲7、2019年度の一ノ関以南モニタリング導入で▲2となる。青保技は7月1日で▲9、2020エンドの津軽線。奥羽本線モニタリング導入で▲1となる。
- 技セに助役と一般を置く形となる。
- 副所長が自職場をしっかりと見ていく。所長が全体を見ていく形となる。

安全で働きがいのある保線職場を創り  
出すために、みんなで議論しよう！